

『智頭らしい福祉のまちづくり』を共に考える 第5回(令和3年度第1回) 暮らしを考える会を開催しました

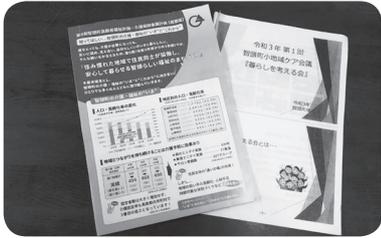
暮らしを考える会とは？

『智頭らしい福祉のまちづくり』を推進するために、地域の現状や課題を共有し、地域の皆さんと行政が解決策について共に検討する機会として、平成30年度から地区ごとに開催しています。

コロナ禍のため、工夫して開催

新型コロナウイルスの感染拡大状況を考慮し、地区ごとに1箇所で開催する従来の方法を見合わせ、皆さんが集落等で小規模に集まる機会に担当者が伺う、出張版・暮らしを考える会として開催しました。

10月中旬から12月上旬までの間、ミニデイやサロン等を運営する62団体からの要望等により開催し、延べ613人の人に参加いただきました。



配布した資料

皆さんとお話ししたこと(抜粋)

【智頭町の介護・福祉のいま】

- ・県内市町村で比較すると、本町の高齢化率は5番目に高いが、介護認定率は3番目に低い。(令和2年10月現在)
- ・本町は、森のミニデイ、集落ミニデイ、サロン等、住民主体の『通いの場』が充実。

近年の研究などで、通いの場に通うことが介護予防に効果的であると明らか。

【智頭町の介護・福祉のこれから】

- ・これからの介護予防は、介護予防準備群の人だけではなく、すべての高齢者を対象として、社会参加とそのため居場所づくりや支え合いの体制づくりを進めることが求められている。
- ・『自分の豊かな老後の姿』をイメージしてもらい、それを叶えるために必要な支援策を検討していく。

参加者からの意見

・ミニデイでは世話する側だと思っていたが、自分の介護予防にもなっているわかったので、頑張つて続けたい。
・集まるのが目的で、体操はそのための手段だと聞き、体操ができていくなつても気兼ねなく通い続けられる会にしたいと思つた。

・まだ元気な人も、介護予防は自分ごとだと考えられるよう、周知してほしい。



次回の暮らしを考える会

5月頃、次の2点をテーマに、各地区で開催予定です。

- ①皆さんがイメージする豊かな老後の姿を叶えるための支援策の検討
- ②令和3年2月・11月に実施した「健康とくらしの調査」の地区ごとの分析結果報告